

# 平成26年【第3回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

## 1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を四半期(3ヶ月)に1回実施する。

## 2 調査の概要

### (1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方153名  
※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

### (2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

### (3) 調査対象時期

平成26年8月(次回調査は平成26年11月予定)

### (4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感 (生活の回復度、直近3ヶ月間の進捗状況)  
問2 地域経済の回復に対する実感 (地域経済の回復度、直近3ヶ月間の進捗状況)  
問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感  
(災害に強い安全なまちづくりの達成度、直近3ヶ月間の進捗状況)

### (5) 回収結果

有効回収率 86.3%(132名/153名) <前回 85.0%(平成26年5月調査)>

### (6) 回答者の属性

#### ①性別

性別	人数	割合
男性	89	67.4%
女性	43	32.6%
不明	0	0.0%

#### ②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	43	32.6%
沿岸南部	89	67.4%
不明	0	0.0%

#### ③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	23	17.4%
40歳台	35	26.5%
50歳台	46	34.8%
60歳以上	28	21.2%
不明	0	0.0%

#### ④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	72	54.5%
被災なし	57	43.2%
不明	3	2.3%

#### ⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など) 51名(38.6%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など) 39名(29.5%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など) 42名(31.8%)

#### ■参考■

- 「回復度」「達成度」とは、震災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。
- 「進捗状況」とは、直近3ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 調査結果の集計・分析にあたっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。  
※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

### 3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が55.3%と前回(55.8%)とほぼ同水準となり、「あまり回復していない」「回復していない」の合計は16.6%と前回(17.8%)を1.2ポイント下回った。

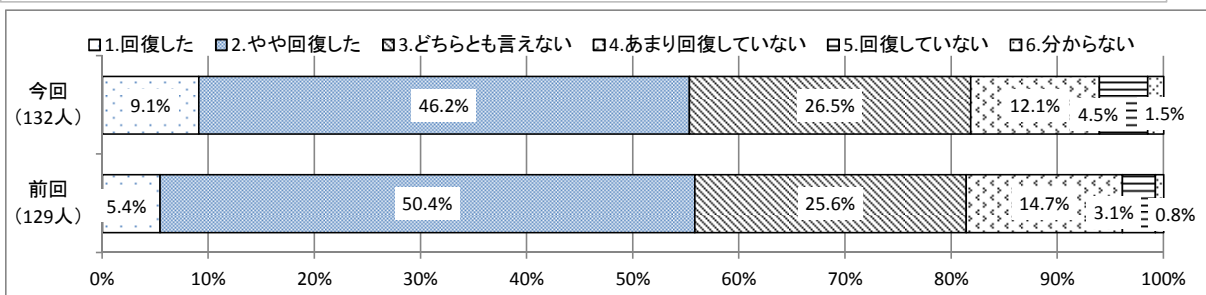
○地域別では、沿岸北部・沿岸南部ともに「やや回復した」の割合が最も高かった(沿岸北部51.2%、沿岸南部43.8%)。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で74.5%と前回(75.7%)を1.2ポイント下回り、沿岸南部では46.0%と前回(48.4%)を2.4ポイント下回った。

○直近3ヶ月の回復の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が51.2%と前回(56.3%)を5.1ポイント下回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は19.1%と前回(22.7%)を3.6ポイント下回った。

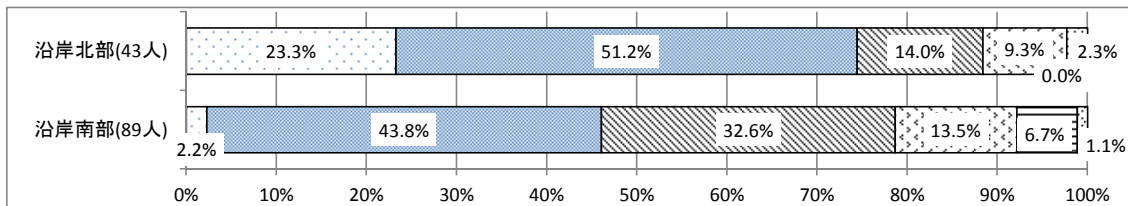
**新築や公営住宅への転居が増えたという前向きな声がある一方、仮設生活の長期化による精神的な疲弊、住宅新築の資金繰りを不安視する声もあった。**

#### ① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

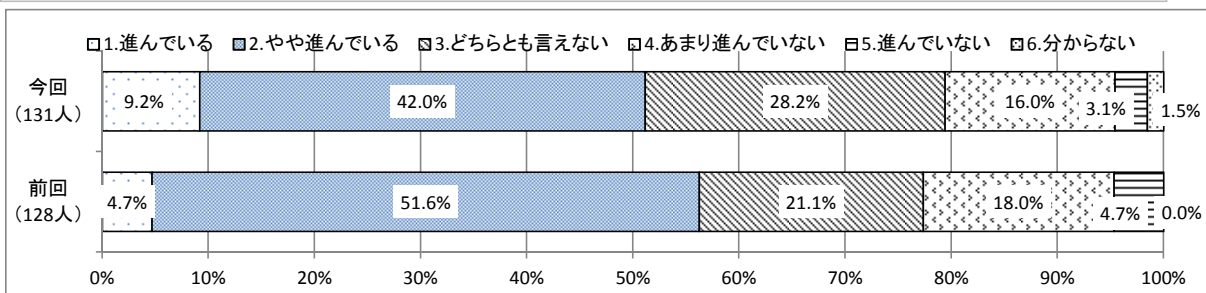


#### 地域別

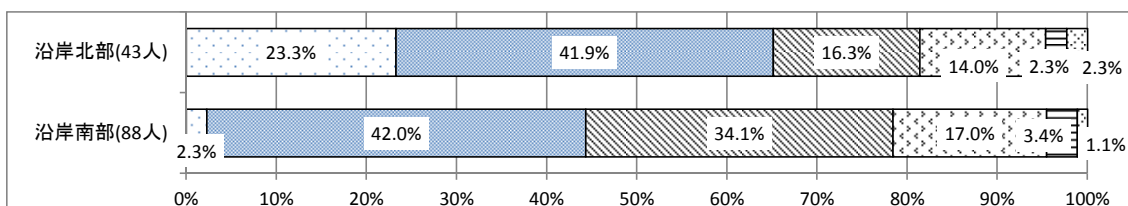


#### ② 直近3ヶ月間(概ね6月から8月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



#### 地域別



\* ( )内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由	◆日々の生活は普通に送れるようになってきていると感じる。公営住宅にもたくさんの方々が入居したり自力再建している人もいる。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部)
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	◆被災から3年過ぎたころより自立の心が芽生えてきていると思う。次々民間のアパートが建つと新しいアパートに次々入居している。復興アパートもできるのに・・・と思って見ております。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆仮設住宅の空室が増えて、一部は解体して校庭に戻した。(50歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆自力再建の家が増えている。一団地ではあるが、防災集団移転での住居が建って、入居が始まった。近隣にスーパーが再建し、買い物も楽になった。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆仮設住宅の近所でも自力再建による住宅の建築が増加して来ている。反面仮設住宅の空部屋の増加により、集約化の問題等が出てくると思われる。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆お盆のスーパーの人のこみ具合を見ていると、昨年より増えていると感じたから。(40歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部) ◆具体的に自宅再建の話が周囲で聞くことが多くなりました。笑顔も増えたように感じます。土砂災害報道を見て、「大震災の時にお世話になったから、今度は私たちが力を貸さなければ・・・」と考える人もいます。(40歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部) ◆高台の整地作業が少しずつ進んでいるらしく、どのような眺めになっているのか見学会が開かれた。また三陸道の方も着々と進んでおり、道路になる所が高く盛り上げられている。(39歳以下、教育・福祉施設関連、沿岸南部) ◆やっと災害公営住宅の募集が始まり、入居を決定した方も多くなってきた。高台移転の工事も目に見えて進歩がわかるということは安心感につながっている。雇用については求人が多いが応募者は少ない。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)
「3.どちらとも言えない」 の理由	◆仮設住宅から転居する人が少ない。工賃や建設資材の高騰などで当初の予算では、建設できない状況だ。現在回復できない人は代替地の造成遅れ等自力で何ともできない理由で困っている。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部) ◆スーパーの出店で日常の生活は落ち着いて来た。この先の自宅再建の事がいつも頭から離れません。資金繰り(消費税、建材不足、人手不足)等、夜も眠れないほど考えさせられます。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆住宅再建する方が増えてきた。様々な補助システムがあるが、なかなか周知されず、なかには、再建に踏み込めないでいる方もいる。補助システムの周知を再度、あるいは手法を変えて徹底していく必要がある。(40歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部) ◆生活を再建する意識のある人は既に行動を起こしている(被災した地から離れた場所で再建に取り組んでいる人を含めて)。一方、意欲のなさは、平日の遊技場等の人数の多さに現れているようにも思う。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部) ◆災害公営住宅に入居した高齢者の表情が暗くなり仮設を出なければよかったと話しているのを耳にします。新しい環境に馴染み人間関係を築くことに苦悩しています。(40歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部)
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	◆仮設住宅に入居してから3年も過ぎ、ストレス等で健康を害す方々も見えてきており、早期の住宅再建の整備をして戴きたい。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆防集も災害公営住宅も進まぬ。物価も消費税も上がる。住宅価額も上昇している(坪単価等)。そのため自力再建に変わった人は多数いる。変なNPOが沢山あり、災害直後のように素直な気持ちではられない。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	◆高台の工事は進んでいるようだが、宅地にはまだまだ先の話かな。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など  
教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など  
産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

### 3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が51.9%と前回（55.9%）を4.0ポイント下回り、「あまり回復していない」「回復していない」の合計は18.3%と前回（13.2%）を5.1ポイント上回った。

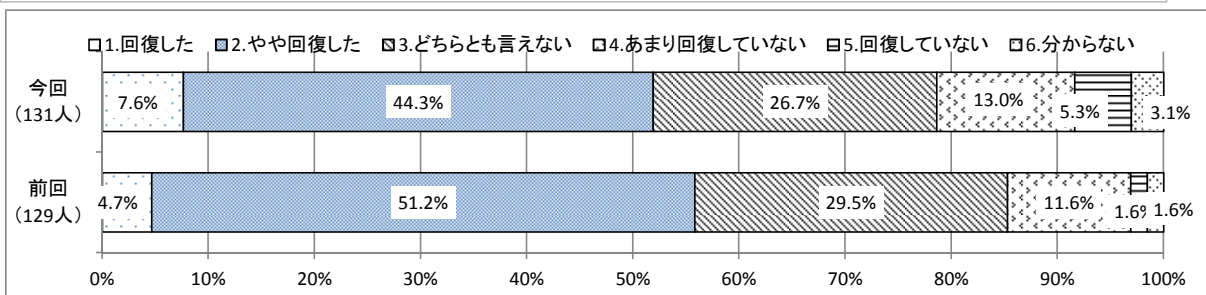
○地域別では、沿岸北部・沿岸南部ともに「やや回復した」の割合が最も高かった（沿岸北部51.2%、沿岸南部40.9%）。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で67.5%と前回（64.9%）を2.6ポイント上回り、沿岸南部では44.3%と前回（51.6%）を7.3ポイント下回った。

○直近3ヶ月の回復の進捗状況を見ると、「進んだ」「やや進んだ」の合計が48.8%と前回（46.6%）を2.2ポイント上回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は16.8%と前回（16.3%）とほぼ同水準であった。

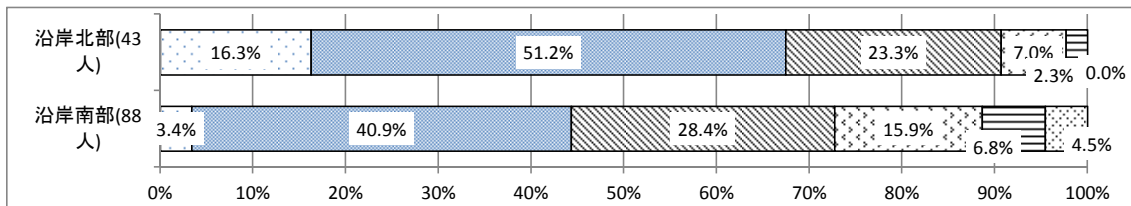
大型店進出による雇用・消費拡大への期待や水産業の好調を前向きに評価する声がある一方、魚価の低迷や復興工事の完了後を懸念する声もあった。

#### ① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

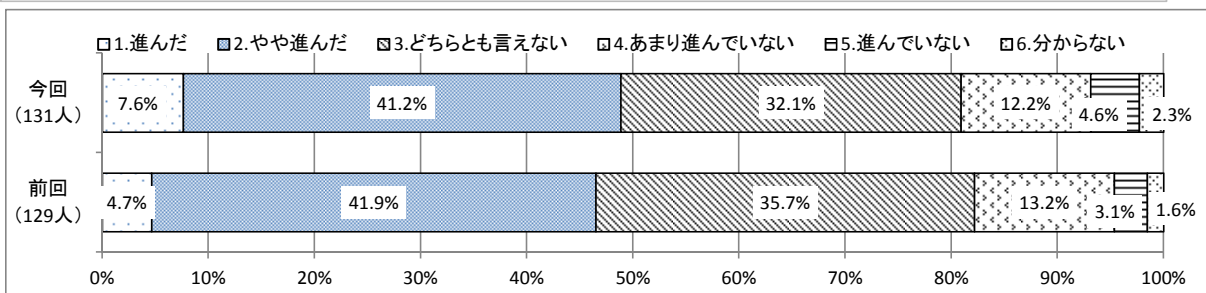


#### 地域別

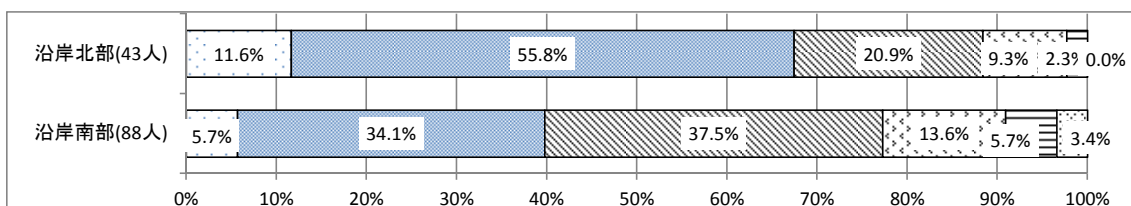


#### ② 直近3ヶ月間(概ね6月から8月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



#### 地域別



\* ( )内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	<p>◆復興特需で活性化されてきていると思う。水産業も新しいブランド(海産物)を立ち上げ盛り上がっていると思う。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	<p>◆グループ補助金で開店した商店が数件ある。しかし、仮設店舗も未だ多い。銀行やホテルが浸水地域内に建設され、震災復興関係の新企業進出も見られる。しかし、雇用のミスマッチによる人手不足は解消されない。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆養殖生産体制が整い、生産も2回の漁期も終えたが、漁港の整備が遅れており、本来の加工場は改築されておらず、生産加工に支障をきたしている。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆わかめ・昆布養殖が最初に復旧し、続いてホタテ貝養殖が復旧した。本年より本格的なカキ養殖の生産が開始された。また、ホヤの養殖生産も行われ、震災前より価格が上昇していることは、生産者にとって悦ばしい。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆建設業の仕事が増えた。民宿等は工事関係者や来訪客等で客が増えている。学生アパートもみなし仮設住宅利用や工事作業員の宿舎として利用されている。仮設店舗の利用も安定し、漁業も活性化している。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆漁船漁業は、油の値上げにより出漁を検討中の船も？浅海、養殖漁業は船もそらい、水揚げは6割～7割程度まで回復しているが、生産者が依然少ない。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆大型スーパーの参入により、確かに活気のいい面は見られる。しかし、地元の商業(商店主)は逆に不安を訴えている。中央資本ではなく、地元の業者が回復しないことには地域の将来は無いように思う。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆特に水産業の面で回復してきたと感じる。生産量は上がらないものの仕事の目途が立ち海での仕事の様子に活気が見られる。観光船の就航式が行われ、震災前のように観光客が訪れてくれることが期待される。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p> <p>◆宅地造成や道路工事のための車両が行きかい、昼食時はどこの食堂もいっぱいのもので、にぎわいを感じている。しかし、工事が終われば、震災前よりもさびれた地域になってしまうのではないだろうか。(40歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆新規参入企業がある一方、場所や資金面などで苦心している話を聞く。盛土の工事に伴う仮設店舗の移転場所や移転費用、新規の開業場所、補助事業のあるうちに基盤をつくりたいが、スムーズに進まないなど。(40歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆漁業の町だから、水産業の回復なしに地域経済は回復しない。漁業をやっとうとする人は若い世代にはなかなかいない。水産加工場ができたが、働き手が集まらない。働き盛りの被災者達に働く意欲が不足している。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆商業施設やホテルなどが建ったが、採算がとれていないのではないかと。一時的な『復興景気』にならないよう、商業エリア形成や市街地から離れたベッタウンなど地域全体で取り組むべき。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆大手企業の店舗数が増えました。町中心部にある仮設店は地盤を上げるための工事着工とともに移転、閉店をする状況にあります。どちらも再開する資金面で厳しい状態にあると聞きます。(39歳以下、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆水産業、農業ともにずいぶん活発になってきた。加工品の新商品開発など新しい動きも目立つようになったし地域の皆さんが集い新商品開発のセミナーの機会も多くなった。観光面では新たな魅力作りが必要。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆仮設工場・店舗での営業を余儀無くされており、本設営業予定地の工事完了を待っている。防災集団移転促進事業などが計画通り進んでいる。仮換地指定が進められ、各経営者とも本設移転の準備に入りつつある。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆工事関係者関連の経済回復は見えるが、一方で復興した水産関係業種の中で販路がなくなり苦勞している業種が多い。単価が原発の影響を受けたままのものが、回復のきざしが見えない物がまだありすぎる。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<p>◆以前のようにボランティアが来ないため、観光にもっと力を入れるべき。PR活動をもっとすべき(風化防止のため)(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など  
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など  
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

### 3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりについては、「達成した」「やや達成した」の合計が25.4%と前回（23.3%）を2.1ポイント上回り、「あまり達成していない」「達成していない」の合計は45.4%と前回（45.7%）と同水準であった。

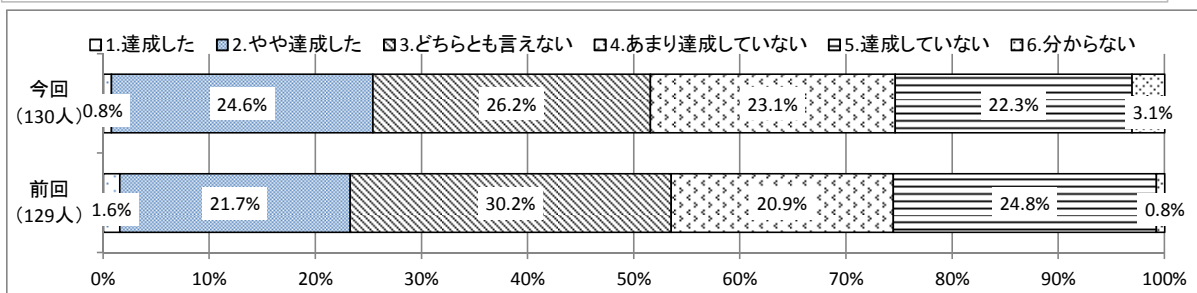
○地域別では、沿岸北部が「やや達成した」が51.2%（前回は43.2%）と最も高く、沿岸南部では「どちらとも言えない」が31.0%（前回は29.7%）、「達成していない」が29.9%（前回は29.7%）と引き続き高い水準となった。

○直近3ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が37.7%と前回（32.8%）を4.9ポイント上回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は35.3%と前回（41.5%）を6.2ポイント下回った。

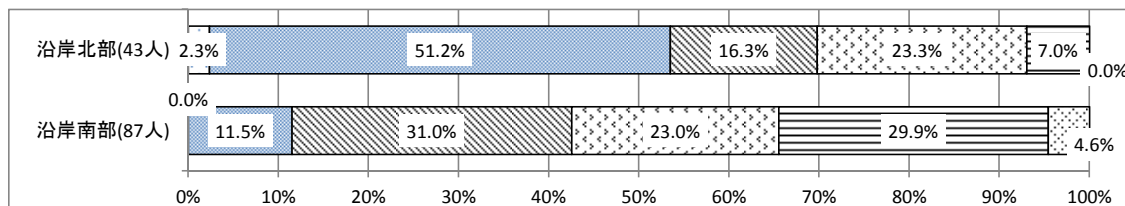
防潮流工事の進捗を前向きに評価する声がある一方、防災意識の希薄化を懸念する声もあった。

#### ① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

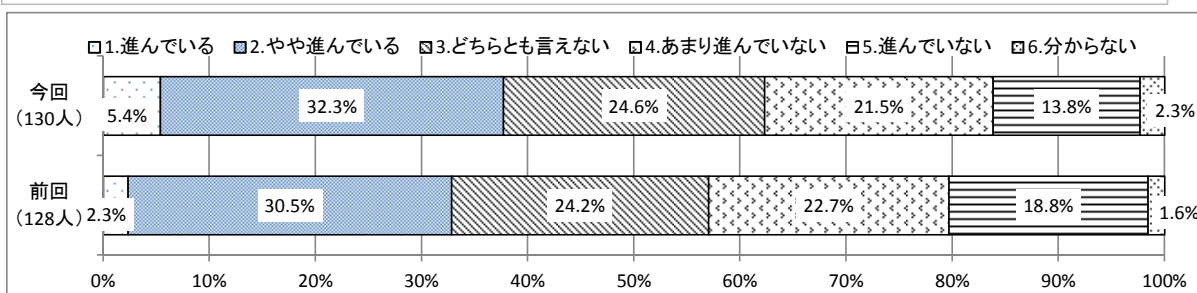


#### 地域別

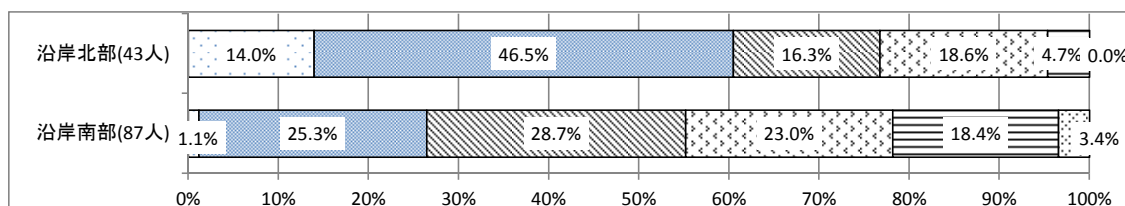


#### ② 直近3ヶ月間(概ね6月から8月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月程度)災害に強いまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



#### 地域別



\* ( ) 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆かさ上げが順調に進んでいる。震災後の不要の建物撤去が進んでいる。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</li> <li>◆津波が押し寄せた地区の嵩上げ計画も具体的な動きができてきている(移転や保障金)。この計画が完遂した時点で安全なまちづくりが達成されたとなるのだろう。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</li> <li>◆防潮堤や復興道路の整備が進められている。また、震災を踏まえた新たなハザードマップが住民に配布された。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</li> <li>◆堤防工事が進んでいます。また、小中学校の新校舎工事が始まった。災害に強いまちづくりは必要なことです。今後、何十年先を考えたまちづくり(人口減少・高齢化など)も一緒に考えて欲しいと思います。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</li> <li>◆防潮堤工事が始まり市民の皆さんは完成を待っている。記憶を風化させないよう津波の高さの表示など小さいながらも様々な取り組みが見られる。これも災害に強いまちづくりのひとつと思っている。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</li> <li>◆地域によっては、避難タワーの設置計画が進むなど、災害に強いまちづくりは進んでいると実感している。(40歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</li> </ul>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆防潮堤の工事が動き出しているが、私自身を含め防災意識が薄れている。津波注意報がでて高台に避難しなかった。防潮堤ができてしまうと、それで安心して、尚避難行動をしなくなるのではないか。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</li> <li>◆町内の嵩上げが進み、高くなってはいますが、安全なのかどうかはわかりません。高台移転ということで山を切り崩していますが、広島のように将来土砂災害にあわないだろうか・・・と不安になります。(40歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</li> <li>◆かさ上げの盛り土があらちちで目立ってきています。少しずつ進んでいるのは感じますが、工事の優先順位には疑問があります。地権者との話し合い等いろいろ問題もあるとは思いますが…(40歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</li> </ul>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆破壊された防潮堤がそのままなのは、観光ガイドの話の種としては良いが、住居を構えようとしている住民にとっては気持ちが萎えます。追い打ちを掛けるように「復興計画が1年～1年半遅れる」とのこと。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</li> <li>◆岸壁のかさ上げ、船の上架場所の整備はやや進んでいるが、防潮堤はそのままである。もう少し住宅、漁師の意見を聞きながら工事を進めてもらいたい。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</li> <li>◆新しい「まちづくり」の計画に沿って避難道の整備や土盛り、防潮林の植樹が進められている。しかし、そのどれもが整備途中であり、達成にはまだまだ時間がかかる。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</li> <li>◆津波注意報で避難する人はほとんどなかった。「津波をくい止めるために高く丈夫な防潮堤を作ります」と説明しているのだから、少ないのは当たり前である。注意報でも警報でもとにかく避難では、誰も避難しない。(40歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</li> </ul>
<p>「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆防潮堤も始まったばかり、UR土地地区画整理事業の街は、まだ、土の仮置き場になっている状態です。3年後と言われていますが、それ以上かかるのでは?と思います。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</li> <li>◆防潮堤がない為、津波注意報等、出た時には浸水域以上に高い場所に避難する状況が続いている。降雨のたび古い側溝があふれて崩落、ヒビ割れ等、高台住環境の悪化をまねいている。(放置されたまま)(40歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</li> <li>◆防潮堤が完成するのはまだまだ先とはわかります。だからこそ、高台へ避難する道路等の整備もしてほしい。(40歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</li> </ul>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連： 急急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など  
 教育・福祉施設関連： 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など  
 産業・経済・雇用関連： 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

平成26年【第3回】  
「いわて復興ウォッチャー調査」  
結果報告

発行

平成26年9月25日

岩手県

復興局 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話(019)-629-6945

ホームページ：岩手県震災復興・復興の動き

<http://www.pref.iwate.jp/fukkounougoki/>